

線形代数及び演習 II ・ 自習シート

問1 $V = \mathbb{R}^3$ とし, $\mathbf{x} = {}^T(x_1, x_2, x_3) := \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$ とかくことにする. 次の V の部分集合 W についてそれぞれ V の線形部分空間か否か判定せよ.

(1)

$$W = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 : 3x_1 - 2x_2 + 4x_3 = 0\}$$

(2)

$$W = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 : x_1 + x_2 + x_3 \geq 0\}$$

(3)

$$W = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 : x_1 + x_2 + x_3 \text{ は整数である} \}$$

(4)

$$W = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 : 2x_1 + 3x_2 - 5x_3 = 0, x_2 + 7x_3 = 0\}$$

解答例 (1) $\mathbf{0} = {}^T(0, 0, 0)$ について $3 \cdot 0 - 2 \cdot 0 + 4 \cdot 0 = 0$ より $\mathbf{0} \in W$. 次に $\forall \mathbf{u}, \mathbf{v} \in W$ に対して, $\mathbf{u} := {}^T(u_1, u_2, u_3)$, $\mathbf{v} := {}^T(v_1, v_2, v_3)$ とおくと, それぞれ

$$3u_1 - 2u_2 + 4u_3 = 0, \quad 3v_1 - 2v_2 + 4v_3 = 0$$

を満たす. これらをたし合わせると,

$$0 = (3u_1 - 2u_2 + 4u_3) + (3v_1 - 2v_2 + 4v_3) = 3(u_1 + v_1) - 2(u_2 + v_2) + 4(u_3 + v_3)$$

より $\mathbf{u} + \mathbf{v} \in W$ が得られる. 最後に $\forall c \in \mathbb{R}$ に対して,

$$0 = c(3u_1 - 2u_2 + 4u_3) = 3(cu_1) - 2(cu_2) + 4(cu_3)$$

より $c\mathbf{u} \in W$ が得られる. 以上より W は V の線形部分空間である.

(2) $\mathbf{u} := {}^T(1, 1, 1)$ について

$$1 + 1 + 1 = 3 \geq 0$$

より $\mathbf{u} \in W$ を満たす. しかしこの \mathbf{u} の定数 $c = (-1)$ 倍について

$$c\mathbf{u} = (-1) \times {}^T(1, 1, 1) = {}^T(-1, -1, -1)$$

は

$$(-1) + (-1) + (-1) = -3 \not\geq 0$$

より $c\mathbf{u} \notin W$. ゆえに W は V の線形部分空間ではない.

(3) $\mathbf{u} := {}^T(1, 0, 0)$ について

$$1 + 0 + 0 = 1$$

より $\mathbf{u} \in W$ を満たす. しかしこの \mathbf{u} の定数 $c = 1/2 = 0.5$ 倍について

$$c\mathbf{u} = (1/2) \times^T(1, 0, 0) =^T(1/2, 0, 0)$$

は和 $cu_1 + cu_2 + cu_3$ が $1/2$ となり整数ではない. よって $c\mathbf{u} \notin W$. ゆえに W は V の線形部分空間ではない.

(4) $\mathbf{0} =^T(0, 0, 0)$ について $2 \cdot 0 + 3 \cdot 0 - 5 \cdot 0 = 0$, $0 + 7 \cdot 0 = 0$ より $\mathbf{0} \in W$. 次に $\forall \mathbf{u}, \mathbf{v} \in W$ に対して, $\mathbf{u} :=^T(u_1, u_2, u_3)$, $\mathbf{v} :=^T(v_1, v_2, v_3)$ とおくと, それぞれ

$$\begin{cases} 2u_1 + 3u_2 - 5u_3 = 0, \\ u_2 + 7u_3 = 0, \end{cases} \quad \begin{cases} 2v_1 + 3v_2 - 5v_3 = 0, \\ v_2 + 7v_3 = 0 \end{cases}$$

を満たす. これらをそれぞれたし合わせると,

$$0 = (2u_1 + 3u_2 - 5u_3) + (2v_1 + 3v_2 - 5v_3) = 2(u_1 + v_1) + 3(u_2 + v_2) - 5(u_3 + v_3),$$

$$0 = (u_2 + 7u_3) + (v_2 + 7v_3) = (u_2 + v_2) + 7(u_3 + v_3),$$

より $\mathbf{u} + \mathbf{v} \in W$ が得られる. 最後に $\forall c \in \mathbb{R}$ に対して,

$$0 = c(2u_1 + 3u_2 - 5u_3) = 2(cu_1) + 3(cu_2) - 5(cu_3)$$

$$0 = c(u_2 + 7u_3) = (cu_2) + 7(cu_3)$$

より $c\mathbf{u} \in W$ が得られる. 以上より W は V の線形部分空間である.

(1) と (4) の別解

$$A = \begin{pmatrix} 3 & -2 & 4 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix},$$

$$B = \begin{pmatrix} 2 & 3 & -5 \\ 0 & 1 & 7 \end{pmatrix}$$

とおくと (1) と (4) の W はそれぞれ

$$W = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 : A\mathbf{x} = \mathbf{0}\},$$

$$W = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 : B\mathbf{x} = \mathbf{0}\}$$

とかける. それぞれの A と B の核でそれらは V の線形部分空間なので, W は V の線形部分空間となる.

問2 V を \mathbb{R} 上で定義された実数値をとる関数全体とする. この V は, $\forall f, g \in V$, $\forall c \in \mathbb{R}$ に対して,

$$(f + g)(x) := f(x) + g(x) \quad (x \in \mathbb{R}),$$

$$(cf)(x) := c \times f(x) \quad (x \in \mathbb{R})$$

を和と定数倍, すべての $x \in \mathbb{R}$ に対して $o(x) = 0$ という関数 o をゼロ元として線形空間となることが分かっている.

このとき, W を \mathbb{R} 上で定義された実数値をとる連続な関数全体とすると, W は V の線形部分空間となることを示せ.

解答例 3条件を確かめる. まず $o \in W$ を示す. すべての $x \in \mathbb{R}$ に対して $o(x) = 0$ となる関数は (定数関数であり) \mathbb{R} 上, 連続である. よって $o \in W$. 次に $\forall f, g \in W$ に対して f, g は \mathbb{R} 上, 連続であるが, その和 $f + g$ も \mathbb{R} 上, 連続である. よって $f + g \in W$. 最後に $\forall c \in \mathbb{R}$ に対して, その定数倍 cf も \mathbb{R} 上, 連続である. よって $cf \in W$. 以上により W は V の線形部分空間である. \square

問3 $V = \mathbb{R}^3$ とし, $W \subset V$ は V の線形部分空間であると仮定する. このとき次の手順に沿って, W におけるゼロ元 $\mathbf{0}_W$ が V のゼロ元 $\mathbf{0} = {}^T(0, 0, 0)$ と一致することを示せ.

(i) W が線形空間であることを用いて, 線形空間 W のゼロ元 $\mathbf{0}_W$ に関する2条件 (講義中の (3) と (8)) を論理記号でかけ.

(3) ある $\mathbf{0}_W \in W$ が存在して, すべての $\mathbf{u} \in W$ に対して $\mathbf{u} + \mathbf{0}_W = \mathbf{0}_W + \mathbf{u} = \mathbf{u}$;

(8) すべての $\mathbf{u} \in W$ に対して $0\mathbf{u} = \mathbf{0}_W$.

解答例 (3) $\exists \mathbf{0}_W \in W$ s.t. $\forall \mathbf{u} \in W, \mathbf{u} + \mathbf{0}_W = \mathbf{0}_W + \mathbf{u} = \mathbf{u}$;

(8) $\forall \mathbf{u} \in W, 0\mathbf{u} = \mathbf{0}_W$.

(ii) $0\mathbf{0}_W = \mathbf{0}_W$ を示せ.

解答例 (i) の (8) より, すべての $\mathbf{u} \in W$ に対して $0\mathbf{u} = \mathbf{0}_W$ を満たすので, $0\mathbf{0}_W = \mathbf{0}_W$ も成立する.

(iii) V が線形空間であることを用いて, 線形空間 V のゼロ元 $\mathbf{0}$ に関する条件 (8) を論理記号でかけ.

(8) すべての $\mathbf{u} \in V$ に対して $0\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

解答例 (8) $\forall \mathbf{u} \in V, 0\mathbf{u} = \mathbf{0}$.

(iv) $\mathbf{0}_W \in W$ が $W \subset V$ より V の元でもあることを用いて (iii) において \mathbf{u} として $\mathbf{0}_W$ を選ぶことで $\mathbf{0}_W = \mathbf{0}$ を示せ.

解答例 (iii) において \mathbf{u} として $\mathbf{0}_W$ を選ぶと

$$0\mathbf{0}_W = \mathbf{0}$$

を得る. よって (ii) と併せれば

$$\mathbf{0}_W = 0\mathbf{0}_W = \mathbf{0}$$